

萍分雲散故人離 尊酒應憐獨酌時
皎皎庭除餘落月 屋梁相照此心期

夜漏漸沈燒燭短，殘書未了引眠遲

羅江春信盆梅報 紙帳宵寒鶴夢知

【読み】

萍（ひょう）分（わか）れて雲散じ故人離れ、尊酒 応に憐むべし 独酌の時。夜漏 漸（ようや）く沈みて燭を焼けば短く、残書 未だ了らずして眠を引けば遅し。羅江 春信を盆梅に報じ、紙帳 宵寒（しょうかん）鶴夢に知る。皎皎たる庭除に落月余し、屋梁 相照らし此の心を期す。

【意味】

浮き草が切れて分かれ、雲が散るように友人は別れていった。杯を前にして独り酒を飲む自分の寂しさを、きつと憐れんでくれるだろう。夜が更けて水時計の音は遠のき、蠟燭は燃え尽きて短くなってしまった。読み終えていない書物が残るまま、眠りにつくのも遅くなっている。羅江の春の訪れは、鉢植えの梅の花が教えてくれる。寒い夜には紙の帳（とぼり）の中は冷たく、夢に出てくる鶴が知らせてくれる。白く澄んだ月明かりが庭に落ちて残り、屋根の梁を照らして、この光が、心に秘めた私の願いを託しているように感じられる。

*萍…浮き草 *尊酒…杯を掲げて独りで酒を飲む様子？

*夜漏…夜の水時計

*羅江…地名か？

*春信…春のたより

*紙帳…紙で作った帳

*宵寒…夜の寒さ

*庭除…庭園

※鶴の夢の解釈…鶴は高潔さや長寿、さらには「再会」や「伝言」を象徴することが多い動物です。夢に現れる鶴は、詩人の深層心理にある別れた友人への思い、もしくは再び会いたいという希望を知らせている可能性があります。詩題の「独酌」から考えてこういうことでは？

【出典】独酌（袁枚・清）